男女共同参画情報紙

わたしたちの
望む社会へ

とらい あんぐる

-TRYあんぐる-

2012
第17号

皆さん，男女共同参画という言葉をご存知ですか。
薩摩川内市では，平成17年4月「男女共同参画基本条例」を施行しました。この情報紙は，
市民の皆さんと意見の交換をしながら一緒に「男女共同参画社会」を築くことを目標にしています。

今号の特集記事は

男女共同参画フォーラム♪ レポート

基調講演

平成23年11月27日(日)薩摩川内市国際交流センターにて、「家族と仕事のハーモニー～大切な人と夢を叶えるために～」と題して男女共同参画フォーラムが開催されました。

オープニングは、小田原美紀さん、中村紀子さんによるクラリネットとピアノの演奏で、穏やかな雰囲気の中、講演が始まりました。

講師に航空宇宙工学エンジニアの山崎大地さんをお迎えして、『家族で叶えた宇宙への夢』と題し、妻の山崎直子さんが宇宙飛行士としてスペースシャトルディスカバリーに搭乗するまでの11年間の出来事をお話しいただきました。

長女誕生後、仕事と家庭(育児・両親の介護)との両立に奔走する中、妻の仕事を支えるために主夫となったこと。妻の直子さんが「宇宙飛行士」という特殊な職業の責務のために、家族が味わった様々な苦労やそれを乗り越えた体験談など。映像を交え、想いを赤裸々に語る大地さんに、会場の参加者は涙を誘われました。

基調講演後には、4つのワークショップが開催され、参加者同士の意見交換を通して更に学びが深まりました。その中で「自分の生き方」「価値観」など、自分と向き合うことが大切だという気づきも生まれます。来年度は、是非、ワークショップにも御参加ください！

次ページよりワークショップの内容をご紹介します。

伝えたかったこと

※内容は一部抜粋

- 仕事と家庭のバランスは、男女間や夫婦間、上司と部下等立場はどうであれ、いつでもフェアで不公平感がないことが大切。
- 企業側が多様な働き方を許容することにより、家族をケアする文化の醸成を図ること。
- 前例主義を排除する。育児や介護は、男女上下関係なく誰しも順番に回ってくるという、会社や上司の意識改革が大切なこと。
- 仕事か家庭かどちらか一方という選択ではなく両方を実現できるような配慮が必要。

山崎 大地さん
(国際宇宙サービス代表)

2010年4月スペースシャトルディスカバリーでフライトした女性宇宙飛行士、山崎直子さんの夫。

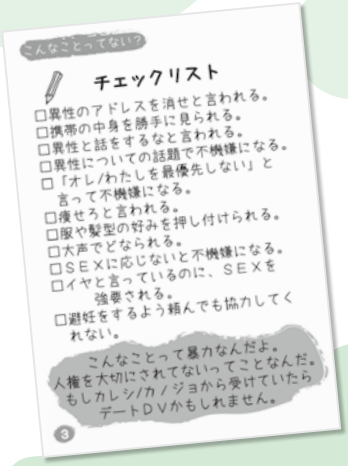
参加者の感想より

とても頑張っている方のお話しで感心しました。男女のバランス、自分の中のバランスをとることの難しさを改めて実感しました。主夫を実行するにあたっての社会的不備などに陽が当たって、世の中がみんなに暮らしやすい方向に進んでいくことを願います。

男女共同参画フォーラム ワークショップ

愛ってなぁに
～ココロとカラダを大切に～

鹿児島純心女子大学学生サークルS&I
部長 **福留 美加**さん

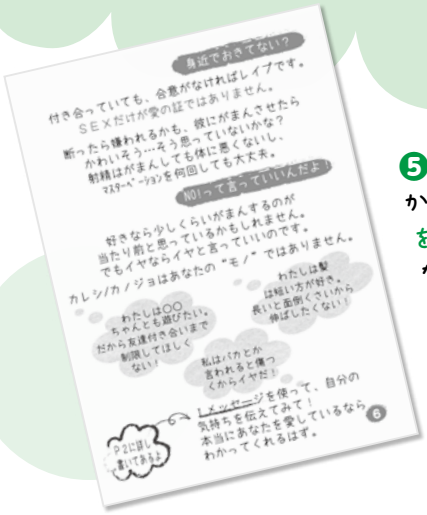


❶私たち鹿児島純心女子大学の学生サークル「S&I」は、若者が若者に向って、好きな人との交際をする際に知っておいてもらいたいことを発信しています。

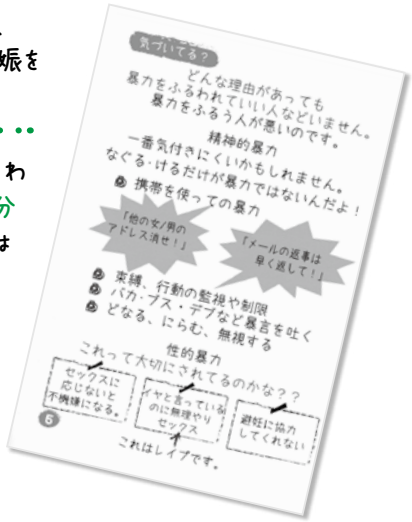
❷どうして「S&I」という名前にしたのですかとよく尋ねられます。Sは Support（支援）の、IはIndependence（自立）の頭文字をとっています。「人は孤立したまま自立するのではなく、人から支えられて初めて自立ができる。だからいつでも困ったら一人で悩まないで、信頼できる人に相談しよう。」という意味が込められています。

❸大学生の私たちも数年前は高校生でした。今、恋愛に興味があるし、性についても関心があります。中高生の頃、周りの友達には彼氏がいる人もいました。それぞれに恋愛に憧れたり、付き合って別れて傷ついてということもありました。
中にはセックス経験のある人がいたり、同じ歳で子どもがいる人も、望まぬ妊娠をして中絶をした人もいました。

❹漫画やドラマのように愛し合ったらセックスするのは当然と思っている人も周りにはいます。でもその交際が少し変だなというカップルに気づきました。「彼氏は私のことを愛しているから、他の男性と話したらいけない、メールも電話もダメって言う」「好きだったらセックスは当り前」「妊娠が不安だけど、彼氏に避妊してと言えない」



❺このようになるのは、もしかしたら中学や高校時代にきちんとわかっていなかったから「自分の気持ち（心）や体は自分のもの。自分を大事にする。相手からも尊重されて当然」と考えられないのではないかと思いました。もし恋愛するなら、どちらか一方が相手を想い通りにするというのではなく、対等でお互いを尊重し合える関係性でいてもらいたいです。そのことを中高校生のうちから学んでおいた方がいいと思うので、顧問の谷崎先生と一緒に学校にお邪魔することがあります。そこでお伝えするのは、デートDVと性に関する正確な情報です。



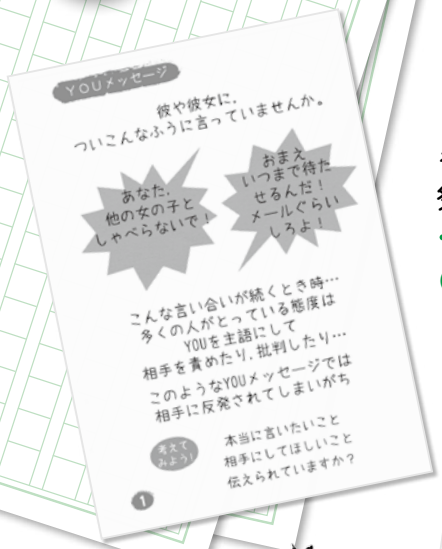
「今、求められる 災害に負けない 地域の絆づくり」
～男女共同参画の視点で 防災・減災・復興を考える～

川内ぱれっと
代表 **橋口 秀子**さん

講師は、神戸新聞社に勤務していた時に、阪神・淡路大震災に遭遇し、市民活動、女性、街づくりを取材し、社説を担当されていた相川康子氏でした。

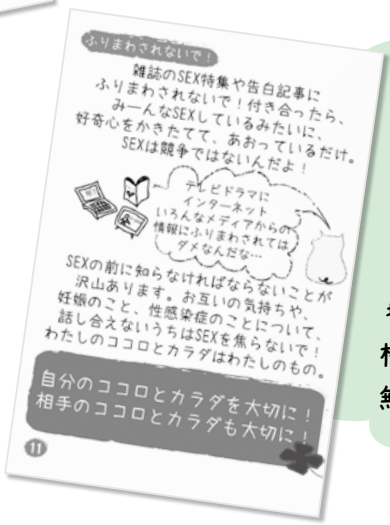
いつ、どこで、どんな災害が起きるかは、誰にもわかりません。平日の日中、家族がバラバラの時、地域に女性や高齢者しかいない時に、災害が起きたら、旧来の性別役割分担の防災訓練（男性が仕切り役、女性は炊き出し、救護）は、役に立たないという事態もあり得ます。

災害は、だれにでも平等に起こりますが、受けるダメージは、格差があります。普段から脆弱な場所（土砂災害危



❻好きだったらヤキモチを焼くのは自然な感情かもしれませんが、相手の自由を奪ったり、怖い思いをさせたら暴力であり、人権侵害です。あれはデートDVだったんだと初めて気付く中高生も多いようです。

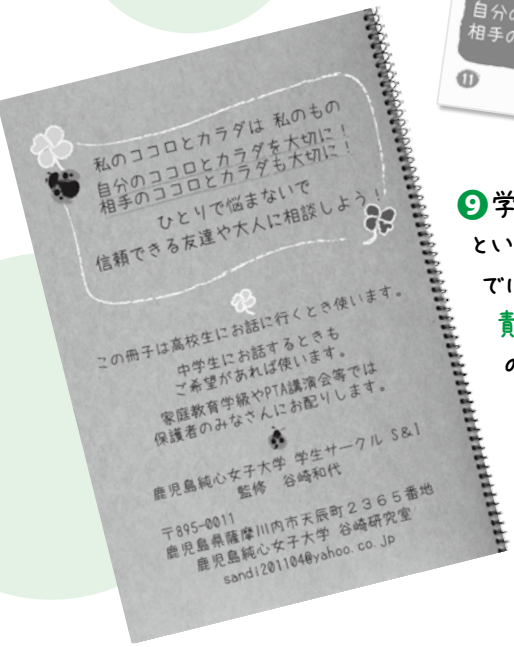
❼私たちは自分たちで製作した小冊子『愛ってなぁに～ココロとカラダを大切に～』を使って説明しています。デートDVの中でも分かりにくい精神的暴力と性的暴力を説明するために短い劇をします。中学生には“彼氏が他の女の子と喋っていたら怒る”、高校生向けには“避妊に協力してくれない彼氏を持つ女の子が友達に相談する”というものです。劇の最中に「うわっ、リアルー」と聞こえてきたこともあって、やっぱり実際にあることなんだなと実感します。



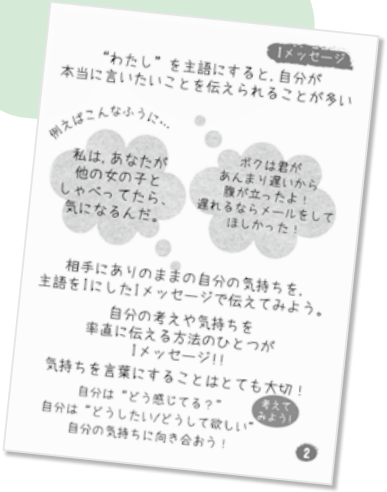
❽高校生になったらセックスしてもいいと思っていませんか？たった1回でも

セックス＝妊娠と性感染症

と覚えて下さい。性感染症の種類によっては、HIVへのかかりやすさが50～300倍です。性感染症は無症状の場合が多いので、女性は産婦人科、男性は泌尿器科で検査を！ HIV(エイズ)だけなら保健所で無料・匿名で可能です。



❾学校に行って説明すると性感染症の怖さがよくわかったという中高生が多いです。軽い気持ちでセックスするものではないと気付くようです。セックスは重い決断が必要で、責任を伴います。妊娠したら産むのか？学校はどうするのか？性感染症の検査には行ったのか？言葉をかわす際、是非I(アイ)メッセージを活用してくださいね。



❿私達を含め、子ども達は正確な情報を求めています。性は大切なこと。恥ずかしいことでも隠すべきことでもない。相手にきちんと向き合い、求められた情報を伝える。私達は安心して相談できる、信頼される大人になりたいです。

険地域、古い木造家屋、高齢者ばかりの集落）脆弱な人（女性、子ども、高齢者、障がいのある人、病弱な人）に、より大きな被害が出る上に、復旧、復興が遅れがちになります。

女性は、地域コミュニティの鍵を握る存在でありながら、リーダーシップが育っていないために、災害の現場で女性の声が届きにくいことによって、様々なトラブル（トイレ、着替え、授乳など）が起きたとの報告があります。

「女性は、災害時要援護者としてとらえ、不利にならないように支援するという視点」と、「女性の地域力を生かして、防災、減災、復興の主体としてとらえるという視点」の二つの視点が、災害に強いまちづくりに必要なのです。

災害に負けないまちとは、そこに住む住民自身が、自分の住むまちの特性を知り、その地域に合った方策を考えることができるまちです。自分たちのリスク（危険性）を正しく把握すること、一人一人が自分で対処する力を高めておくこと、日常の暮らしの中で、できることを積み重ねておくこと、普段から住民同士の関係が良好であることが、大きな力になります。

固定的性別役割分担意識に囚われず、他人任せにせず「できるひとが、できることを、できるやりかたでやる。」という男女共同参画の視点が、防災・減災・復興に必要なのだと思いました。

男女共同参画フォーラム ワークショップ

「共に働くということ」～お互いの気持ちで～

北薩女性士業交流会
代表 **吉永 亜矢** さん

自己紹介ならぬ隣人紹介からこのワークショップは始まりました。これで会場は一気に打ち解け、その後の説明や討論もスムーズでした。

ワークライフバランス(仕事と生活の調和)のとれた生活をしたい。一人ひとりがやりがいを感じながら働き(専業主婦も含む)、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会が生きやすい。一ですよね。ところが、性差、特に女性であるがゆえに制限されてきたという歴史的事実があります。現状は改善されつつも、まだまだ十分とは言えません。法によって守られる自分の権利もあることに着目して…会社での実例、介護にまつわるエピソードなどから、具体的に皆で考えてみました。

その中で**事業者も従業員も「お互い様」の気持ちを皆が持つことも大きな鍵**となることがわかりました。短い時間ながら、多くを学ぶことができました。

北薩女性士業交流会とは・・・

難しいようなお名前ですが、鹿児島県北薩地方(薩摩川内市、出水市、阿久根市)で活動する司法書士と社会保険労務士の団体だそうです。

定期的に勉強会を開催することにより、専門家としての見識を広げることを目的として３年前に結成。

現在では、もっとたくさんの方に制度を知っていただきたいという思いから、勉強会のほかに、セミナーやワークショップも行っているということです。

「性別にかかわらない一人ひとりの人権を大切にできる薩摩川内市に！」

ピアスタディング
代表 **髙﨑 恵** さん

小人数のグループに分かれ、各グループごとに「○○について」の意見発表をしていきました。紙に自分の考えを書きだしていき、それを発表していくのですが、**「私だけ違う意見だ。」「同じ意見の人がいて良かった。」**等、一つの物事に対していろいろな見方や考え方があることに気づきました。

「一人ひとり違っていていいんですよ。男だからとか、女だからとかは関係ないんですよ。みんな違ってみんないいですから。」と髙﨑さん。

一人ひとりの人権を大切にするということは、いろいろな考え方やいろいろな人を認めていくということ。そんな当たり前のことを再認識することができたワークショップでした。

◆男女共同参画講座(出前講座)について

本市では、市民の皆様に男女共同参画社会について、もっと知っていただく目的で、各事業所及び団体等を対象にした男女共同参画講座(出前講座)を実施しています。お陰様で好評をいただいています。

講師は、今回のワークショップを担当した方々、かごしま女性政策研究会会員、鹿児島純心女子大学准教授、鹿児島県男女共同参画地域推進員、人権擁護委員、消費生活専門相談員、社会保険労務士等の先生方にお願いしています。

講師謝金、講師旅費等は必要ありませんが、依頼者で講座会場の準備及び講座会場使用料金をご負担していただく必要があります。

《お問い合わせ先》

薩摩川内市企画政策部コミュニティ課男女共同参画グループ
電話(０９９６)２３－５１１１　内線(４６２１)

●編集／男女共同参画情報紙「とらいあんぐる」編集員会　●発行／〒895-8650 薩摩川内市神田町3番22号薩摩川内市役所 企画政策部 コミュニティ課 男女共同参画グループ
電話 23-5111（内線4621） FAX 20-5570 Eメール sho-gender@city.satsumasendai.jg.jp

とらいあんぐる 編集員募集中！
あなたも一緒に作りませんか？

『とらいあんぐる』とは…

参画（さんかく）と三角（さんかく）を掛けてつけました。「市民・行政・地域」「教師・児童生徒・保護者」「上司・部下・自分」etc…。いろいろな社会において，常に三者（三角）の関係はとても大切です。この情報紙を発行するにあたって，それぞれの「さんかく」を念頭におき，お互いがトライアングルのように響きあいながら，理解し合えるような社会を築けるよう願いを込めました。

この情報紙に関するご意見、ご感想、取り上げて欲しいことなどありましたら、ご連絡ください。